

阪急文化財団が贈る 未来へ, TAKARAZUKA!

逸翁スペシャルコンサート 2026

HANKYU CULTURE FOUNDATION PRESENTS

～岡田敬二 ロマンチック・レビューの世界～

祝! 菊田一夫演劇賞 特別賞受賞!!

姿月あさと

剣 幸



岡田 敬二
宝塚歌劇団・演出家



吉田 優子
宝塚歌劇団・生徒



朝峰 ひかり 穂乃 ゆい 天羽 珠紀

2026年 5日(土)15:00 開演
12月 6日(日)12:00 開演 / 15:00 開演

7,700 円 (全席指定)

逸翁美術館マグノリアホール

【チケット受付開始日】2026年9月15日(火)10:00～※受付開始日以前のお申込は無効です

【チケットお申込方法】※阪急文化財団友の会先行受付あり

【先着順にて受付】マグノリアホール ホームページのお申込フォームよりお申込ください

●受付完了後、ご登録メールアドレスに、オンライン決済「ペイシス (info@paysys.jp)」より、必ず返信させていただきます。

●携帯メールでお申し込みの方は、上記ドメインを必ず受信可に設定願います。

又、返信メールがはじいてしまった場合は、お申込は無効とさせていただきます。ご了承下さい。

●返信には数日お時間を頂きますが、お申込より5日以上経過しても返信のない場合は、

お申し込みの受付が出来ていない可能性があります。必ず御連絡下さい。

●キャンセルは一切お受け出来ません。悪しからずご了承下さい。

主催 公益財団法人 阪急文化財団



<https://www.hankyu-bunka.or.jp/magnolia-hall/>

逸翁美術館 MAGNOLIA HALL

マグノリアホール

逸翁スペシャルコンサート 2026

HANKYU CULTURE FOUNDATION PRESENTS

～岡田敬二 ロマンチック・レビューの世界～

永年の「ロマンチック・レビュー」シリーズの功績に対して、第51回菊田一夫演劇賞特別賞の受賞をトークと歌でお祝い！

岡田 敬二 宝塚歌劇団・演出家 KEIJI OKADA

1963年4月、宝塚歌劇団入団。1967年「若者達のバラード」でデビュー。1974年文化庁海外研修員として一年間の海外留学を経て帰国後、レビューの醍醐味が詰まった「ザ・レビュー」で1977年度芸術祭大衆芸能部門2部優秀賞を受賞。1984年「ジュテーム」を皮切りに、伝統的な宝塚レビューに独自の美学を反映し「ロマンチック・レビュー」と銘打った作品を大劇場公演でシリーズ化。1985年「ラ・ノスタルジー」、1990年「ル・ボアゾン 愛の罠」、1994年「ラ・カンタータ」、1995年「タンディズム」等、長年にわたり様々な視点から常に新鮮でエレガントなオリジナルレビューを作り、数多くの名場面を生み出し不動の人気を確立。一方、海外ミュージカルの演出も数多く手掛け、1993年「グランドホテル」/「BROADWAY BOYS」ではアメリカ演劇界の第一人者トミー・チーン氏と共同演出し、話題となる。2000年には宝塚歌劇団ドイツ・ベルリン公演の「サンライズ・タカラヅカ」、2004年には宝塚歌劇90周年記念「タカラヅカ・グローリー」など記念碑的な大作で手腕をふるい、観客の期待に応えた。また1996年から2004年にかけて株式会社宝塚クリエイティブアーツ代表取締役社長を務めるなど、宝塚歌劇のエンターテインメント事業に従事した。外部でもミュージカルやレビューを始め各種イベントの構成・演出など多彩な活躍を見せるなど、日本の舞台演劇において活躍し、長年公益財団法人宝塚市文化財団の副理事長として、又2011年より宝塚文化創造館の名譽館長として宝塚歌劇団と宝塚市の芸術文化活動に従事している。2013年 宝塚市市民文化賞を受賞。2014年 兵庫県文化功労者の表彰を受ける。2025年にはシリーズ最新作となる「愛、Love Revue」を発表した。永年にわたるこの「ロマンチック・レビュー」シリーズにおける多大な功績に対して、2026年には「第51回菊田一夫演劇賞 特別賞」を受賞。その気品ある作品世界は多くの人々を魅了し続けている。

剣 幸 MIYUKI TSURUGI

1974年60期生として宝塚歌劇団に入団。星・花組合同公演「虞美人」で初舞台。月組に配属。1985年に宝塚歌劇団月組男役トップスターとなる。「ミー&マイガール」日本初演では高い評価を得た。1990年「川宮の囃し」/「ル・ボアゾン 愛の罠」で退団。1993年「蜘蛛の巣」主演で第18回菊田一夫演劇賞、2007年「カーネギーの日本人」で東京芸術劇場ミュージカル月間個人優秀賞、2009年「この森で、天使はバスを降りた」「兄おとうと」で第17回読売演劇大賞優秀女優賞、2013年「ハロー・ドーリー」で第21回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞。近年の出演作に、「ザ・ミュージック・マン」「エリザベート」「ビューティフル」「天翔ける風に」「時のヨナ」等のミュージカルから、「囃子の囃し」「Sametime, Next Year」「ナイト・ウィズ・キャバレット」「飛び立つ前に」等の芝居、「塔の上のラプンツェル」(ディズニー)「ピーボ」(Netflix) 吹替、セルフプロデュース「剣幸急急コンサート」など、多岐に渡る。「宝塚歌劇の殿堂」撮影者。

姿月 あさと ASATO SHIZUKI

元宝塚歌劇団宙組初代トップスター。退団公演でのチケット競争率、ファンの動員数は当時の史上最高を記録。2000年の退団後ソロ・ヴォーカリストとして、コンサートやミュージカルなど音楽活動を中心に活動。近年は、TV・ラジオ出演等、多方面で活躍。クラシックから歌謡曲までジャンルにとらわれない全方位型の「姿月あさと」を表現し続けている。また、坂東玉三郎氏、石井竜也氏、島津重次氏、秋元康氏等、様々なアーティストやプロデューサー陣とのコラボレーションを行い多彩な才能と表情が魅力。毎年好評を博している「大人の遊び場」がコンセプトの「THE PRAYER」や「昭和の歌謡曲」がコンセプトの「昭和歌謡祭」、映画音楽やミュージカルソング等を中心とした「ソロコンサート」のセルフプロデュース公演の他、2027年は芸能生活40周年を迎え「黒蜥蜴」に主演するなど、精力的に活動中。公式サイト: <http://www.shizukiasato.net>

朝峰 ひかり HIKARI ASAMINE

1990年宝塚歌劇団入団。翌年星組に配属。7年間男役、13年間女役を務め、個性豊かな演技力で舞台を支えた。2009年「My dear New Orleans/ア・ビヤント」で退団。退団後は逸翁美術館マグノリアホールで企画、制作に携わる一方、舞台やディナーショー、ライブ等に出演。

毬乃 ゆい YUI MARINO

1996年、宝塚歌劇団に入団。同年月組公演「CAN-CAN」で初舞台を踏み、星組に配属。在団中は歌唱力を生かし、エトワールや影ソロなどを務める機会に恵まれた。2015年、「ガイズ&ドールズ」にて退団。退団後は舞台やOG公演、ディナーショーなどに出演するほか、ストレッチ指導や地元宝塚でボーカル講師として活動している。

天羽 珠紀 TAMAKI AMOU

1997年宝塚歌劇団入団。創設されたばかりの宙組にて15年間男役を務める。豊かで伸びのある歌声に定評があり、「エンカレッジコンサート」や「イゾラベッラ・サロンコンサート」などで活躍。2011年12月退団後は鍼灸師として治療の傍ら、OSK日本歌劇団などで歌唱指導を務める。

吉田 優子 宝塚歌劇団・作曲家 YUKO YOSHIDA

神戸生まれ。大阪音楽大学音楽学科ピアノ専攻にて、神澤哲郎教授に師事。1979年、稽古ピアニストとして宝塚歌劇団に入団。稽古場でピアノを弾く傍ら、作曲家の寺田瀧雄氏の助手を務める。1992年、花組公演「心の旅路」で初めてチーフを担当。1993年文芸音楽室に配属。以後、宝塚歌劇の舞台音楽を担当。主な作品に「エクスカリバー」未来へ、「ルードヴィヒII世」夢の果てに、「花の果実」忍ぶの乱れ、「長崎じれ坂」神田恭信、「エンター・ザ・レビュー」夢を見れば、「外伝ベルサイユのばら」愛のかたち他、又音楽監督として「エリザベート」、「シンデレラ」(新宿コマ劇場)、「コパカバナ」をはじめ、OG公演やディナーショーも多数手掛ける。2022年に作曲家として40周年を迎え、宝塚クリエイティブアーツより記念CD「Ideale」を発売。

2026年12/5(土)15:00開演(14:30開場)、6(日)12:00開演(11:30開場)/15:00開演(14:30開場) 逸翁美術館マグノリアホール
料金:7,700円(全席指定) 主催・問合せ:公益財団法人 阪急文化財団(月曜休館10:00~17:00) 協力:オフィス・エイター、オフィスウォーカー

※このイベントのチケットで小林一三記念館をご観覧頂けます【当日限り・最終入場16:30】

逸翁美術館 阪急文化財団 2027 展示 I 小林一三没後70年

小林一三のART愛ー著書に登場する文芸・美術作品

2027年1月23日(土)~3月28日(日)

開館時間10:00~17:00(最終入場16:30) 毎週月曜日休館、ただし1/25、3/22開館 1/26、3/23休館

公益財団法人 阪急文化財団



逸翁美術館
ITSUO ART MUSEUM

〒563-0058 大阪府池田市栄本町12-27

TEL 072-751-3865 FAX 072-751-2427

阪急電車宝塚線池田駅下車山手徒歩約10分

<http://www.hankyu-bunka.or.jp/>

小林一三記念館

阪急、東宝、宝塚歌劇の生みの親
小林一三の素顔をご紹介します

常設展開催中

逸翁美術館 MAGNOLIA HALL

マグノリアホール